

機 巢

同窓会報メールマガジン

創立60周年記念号



岐阜工業高等専門学校 機械工学科 機巢会

岐阜高専機械工学科 機関誌 『機巢』 2023 年 Vol. 28

目次

P-2	目次 & 会長挨拶		
P-3	創立60周年記念式典と高専祭	太田 哲也	(6期生)
		梅田 茂之	(25期生)
P-4	創立60周年の記念式典中核人材育成塾が表彰	三口 栄一	(1期生)
P-7	機械工学科の現状について	山田 実	(24期生)
P-8	高専人会に参加して	山田 実	(24期生)
P-9	RoboCupJunior in France 2023世界大会	高井 鏡士朗	機械工学科3年
P-10	OB 紹介シリーズ	中尾 賢治	(15期生)
P-12	タイムカプセル物語	犬飼 宏好	(8期生)
P-14	編集後記		

会長挨拶

飯沼義徳 7期生

卒業以来はじめて、高専祭に行ってきました。

4年ぶりにバザーが復活し、家族連れ、小、中学生の子供たち等たくさんの方であふれていました。「第五十九回 高専祭“昇龍”」にて、来場の皆さんと共に、学生の皆さんから元気をいただきました。実行委員の皆さん、関係者の皆さんに心より感謝申し上げます。また、多目的ホールでは岐阜高専創立60周年記念事業として記念式典、特別記念講演が開催されました。記念式典では、中核人材育成塾における長年の貢献として機械工学科のOB3氏（桑原喜代和様、三口栄一様、岩井静克様）が感謝状を授与され、機巢会としても誠に喜ばしく、誇らしいことでした。武井祥平様（電気工学科OB）の特別記念講演「心を動かすエンジニアリング」は、とても分かりやすい言葉で興味深いお話でした。特に東京2020オリンピック・パラリンピックの”聖火台“を機構設計されたということが記憶に残りました。講演を聴き終えた時、何か体の中から沸きあがるエネルギーをいただいたような心持になり、久しぶりにとても良い時間を過ごさせていただきました。特別記念講演後は、若鮎の部屋で軽食をいただきながら、機巢会会員の皆さんと旧交を温めることも出来ました。高専祭を長年ご無沙汰したことを反省し、来年以降は高専祭に出かけることにいたします。機巢会会員の皆様もぜひ、ご家族と一緒に高専祭にお出かけください。学生の皆さんから希望に満ちたパワーをしっかりと受け取ることが出来ます。そして、母校に思いを馳せていただく機会としていただければ幸いです。



岐阜高専創立60周年記念式典の報告と高専祭

6期生 太田 哲也

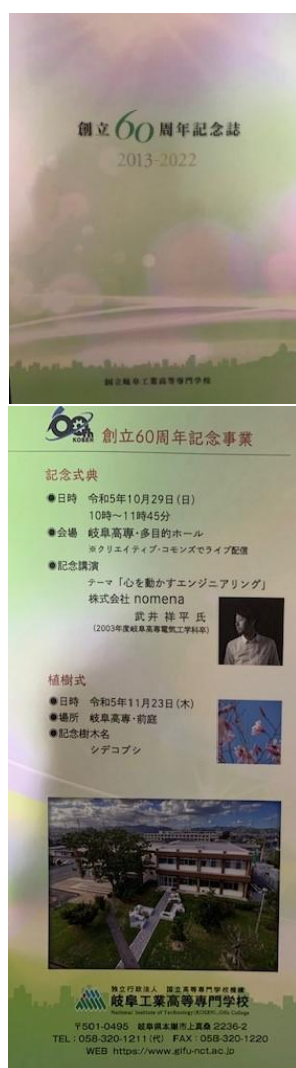
創立60周年記念式典に参加しましたので報告します。式典では伊津野校長の挨拶のほか教育後援会西崎会長、若鮎会所会長の挨拶があり、中核人材育成の功労者表彰がありました。（別紙記事）

10年間の岐阜高専の歴史や各科の活動をまとめた記念誌を頂き、2003年電気工学科卒業の武井祥平氏の記念講演がありました。

武井氏は卒業後名古屋大学で認知心理学を専攻、2012年に東京大学大学院情報学環・学際情報学府修士課程修了。同年「nomena」設立。工学的な視座から前例のない表現の可能性追求する活動を展開。自身の創作活動の他、気鋭のアーティストやデザイナーと共同制作、テクニカルディレクションも数多く手掛けました。主な仕事に東京2020オリンピック・パラリンピック聖火台の主任機構設計者、セイコーとの共同制作による作品シリーズ「時計の捨像」、宇宙航空研究開発機構 JAXSA との共同研究「スピン型ソーラーセイル形状制御装置」、21__21 DESIGN SITHO「ルール?展」への出品作「四角が行く」など、東京を拠点に活躍中です。講演の内容は卒業してからの活動を面白く優しくお話しされました。オリンピックの聖火台の作成の話は興味深かったですね。

高専祭は学科やクラブなどが出店をして外部からお客様も多く、大変盛り上がっていました。若鮎会コーナーがあり、寿司折が用意してあり美味しく食べることができました。機械工学科の伝統のイベントである「ちょんぼ」も健在で、メニューはうどんだけでしたが、売り上げに協力してきました。来年も予定して参加したいと思います。

**創立60周年の記念誌は
学校の図書館においてあるので
ご自由にお持ちください！**



第五十九回岐阜高専 高専祭
2023.10.28(SAT) - 10.29(SUN)

第59回高専祭レポート

東京在住ではありますが、卒業後も高専祭は足しげく通うようにしていましたが、コロナ禍でなかなか開催も厳しい状況が続いていました。今年は4年ぶりにフル開催ということで、コロナ禍で卒業式すらなくなってしまったOG4年目の娘と小学校教諭の長男、高校生の次女（右の写真）と共に2日間とも参加してきました。

10月末とは思えないほど暖かい天候に恵まれ、親子でお世話になったM科の片峯先生、石丸先生、山田先生はじめ、C科の鈴木正先生、廣瀬先生、英語の亀山先生にご挨拶でき、専門展や部活の企画展など充実しており活気が戻っていたことに感動しました。中でも、機械展はショベルカーの機構をエアコンプレッサーで再現し、解りやすい解説やデモンストレーションの後、実際に操作もできて多くの親子連れで賑わい、好評を博していました。また、テクノセンター（実習工場）では、鋳造体験でメタリックネームタグ作りが行われ、砂型作りとバリ取りに苦戦する多くの親子の姿が印象的でした。

個人的には囲碁将棋部にお邪魔し、現役将棋部員に揉んでいただきましたが、高専大会でも上位で活躍している学生さんも居り、プロ棋士・女流棋士が続々誕生している岐阜県に於いて更なる部員さんの活躍を期待しつつ、地域への技術発信の拠点として母校が機能していると感心しました。

25期生 梅田 茂之



創立 60 周年記念式典で中核人材育成塾が表彰

機械工学科 Ⅰ 期 三口榮一

2023 年 10 月 29 日、図書館多目的ホールにて、創立 60 周年記念式典が開催され、伊津野校長から、地域連携協力会の下で展開している中核人材育成塾の講師・運営を担当、尽力してきた高専シニア OB9 名（機械工学科 3 名：Ⅰ 期桑原喜代和さん・三口榮一さん、2 期岩井静克さん、電気工学科 6 名：Ⅰ 期高津正吉さん、2 期奥野泉さん、5 期桜井邦彦さんほか）が表彰され、式典終了後、校長室で感謝状の贈呈・記念撮影がおこなわれました。校長先生ありがとうございました。



記念式典で代表表彰の電気工学科 Ⅰ 期高津正吉さん

地域連携協力会は「岐阜高専と地域の産業・文化の振興を図り、もって地域社会の発展に寄与する」を目的とし、産学連携の母体として「地域産業の人材の育成支援と人材の交流に関する事業」を事業の一つに掲げています。この事業を受け企画・展開しているのが「若鮎連携事業室」の「中核人材育成塾」です。この開始前、Ⅰ 期、2 期の卒業生が企業定年を 2～3 年後に控え、企業モノづくり現場で培ってきた技術や知識・知見を地域社会へ還元しようと JR 岐阜駅隣接のアクティブ G 会議室で熱い議論が交わされたことを記憶しています。中核人材育成塾は 2010 年度から現在まで続き、受講者延べ人数は 4820 人となっています。（別紙 1「中核人材育成塾 受講者延べ人数の年度推移 2010～2023 年度」参照）



校長室での記念撮影

私が参加したのは 2014 年度からで、環境問題と廃棄物処理の講座を担当しています。講座では環境法の定めを実務に活かせるよう分かりやすい内容にしているつもりですが、他の講座に比べて文字数が多いことから、これを業務にしていない方には講座内容がとっつきにくいようで、アンケート結果は低評価でした。講師仲間からは、これを業務としている方のアンケート結果の評価はよいのでこれを尊重したらなどアドバイスを頂きました。改善策は、「事例（10 程度）を入れ、事例のポイントを考えて貰う」など実施した結果、最近のアンケート結果ではようやく、他講座レベル並みに評価を上げることができました。中核人材育成塾の講師を務めてこられたのは、講師仲間の見守り、アドバイスがあったからこそであり、感謝しております。

いま、DX、IOT、EV、CN など世の中は急激に変化しており、その対応が急務で中核人材育成塾も同様です。創設期の卒業生でスタートした中核人材育成塾は、その後、機械・電気工学科の 6・7・Ⅰ 期 OB が加わり、最近では 15・16・19・21 期 OB が新たに参加し、地域の産業に因應べく、2024 年度から「社会人実践力開発セミナー」として生まれ変わります。講座内容は、常にリニューアルが求められますので、今後、岐阜高専 OB の更なる参加を期待しています。

いま、DX、IOT、EV、CN など世の中は急激に変化しており、その対応が急務で中核人材育成塾も同様です。創設期の卒業生でスタートした中核人材育成塾は、その後、機械・電気工学科の 6・7・Ⅰ 期 OB が加わり、最近では 15・16・19・21 期 OB が新たに参加し、地域の産業に因應べく、2024 年度から「社会人実践力開発セミナー」として生まれ変わります。講座内容は、常にリニューアルが求められますので、今後、岐阜高専 OB の更なる参加を期待しています。

（別紙 2「社会人向けセミナーが“新化”します！」社会人実践力開発セミナー“（高専祭予告版）”参照）

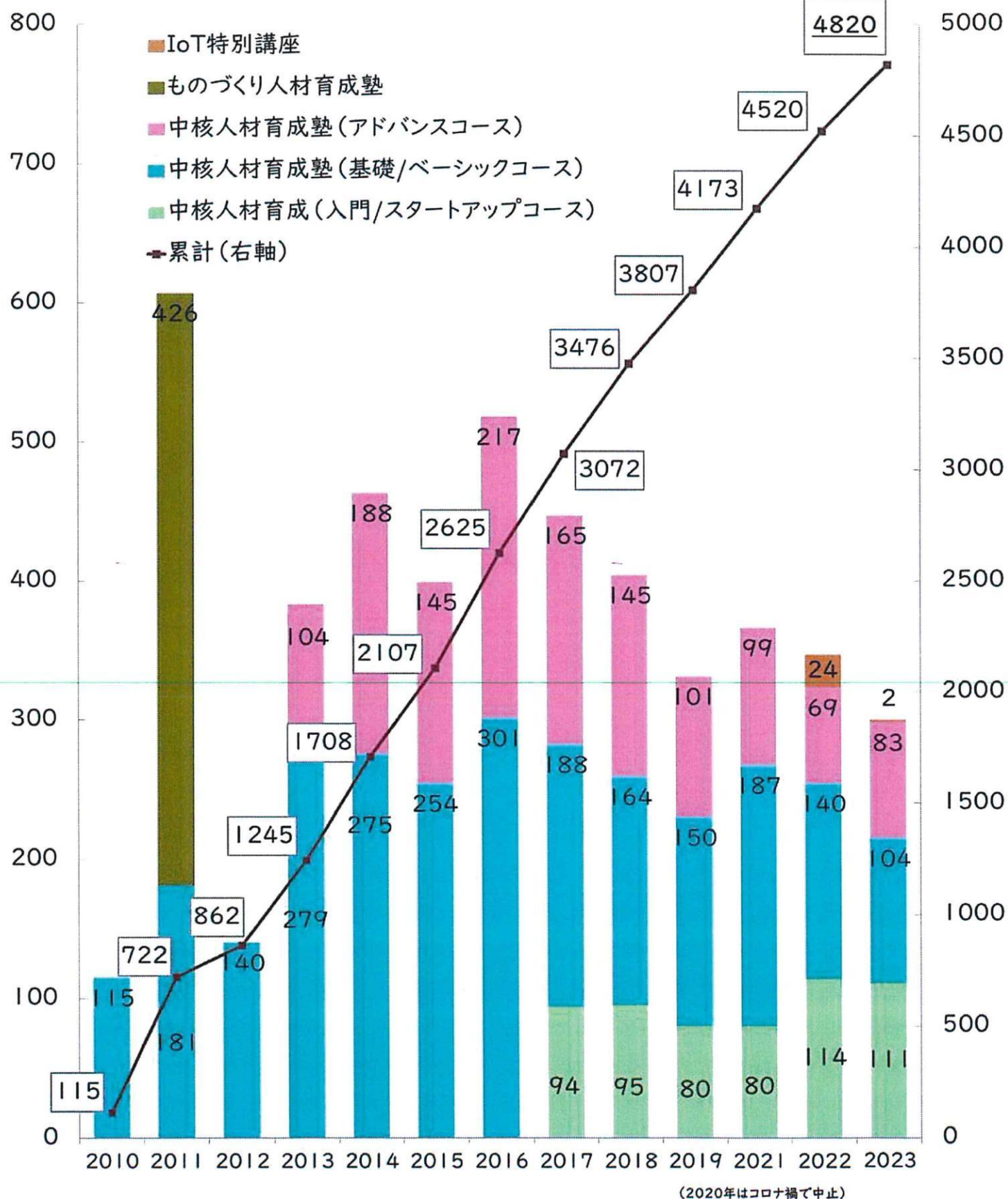
中核人材育成塾 受講者延人数の年度推移2010～2023年度

受講者
延人数(人)

2011年度までは県/国からの受託事業として実施

2012年度からは地域連携協力会主催の有料研修として実施

累計(人)



岐阜高専地域連携協力会

2023年10月27,28日高専祭予告版

別紙2

予告

社会人向けセミナーが”新化”します!

～人材育成塾で皆様と培ったノウハウを基に新たな形態へ～

Be Reborn! “社会人実践力開発セミナー”

何が
新化
なの?

新化1. ご自身の実践力開発を支援します。

新化2. 受講目的により学び方が選べます。ジョブ別・階層別コースを設定しました。

新化3. 岐阜高専教員の講座が2つ始まります。

新化4. 商品(製品)開発・設計に明るい新任講師2名の講座が始まります。

ジョブ別
コース
(縦軸)実務経験に
合せた実践力向上
にお勧め階層別
コース
(横軸)従来と同様に
受講できます一日の単独
受講も選べます講座はテーマ・
内容に合わせ
レクチャー形式と
グループ討議形式
で運営します

社会人実践力開発セミナー

広報版

2023.10.27 発行

岐阜高専に集い地域や社会の中核人財を目指しましょう

2024年度リニューアル!!

コース	【PQ】 Predeclaring Quality 商品力・品質力 の強化実践コース	【CD】 Cost, Delivery 現場改善 実践コース	【HC】 Human Capability 自己能力発掘・ 職場活性化コース	【SG】 Safety, Compliance Environment Governance 安全・規範・環境コース	【ED】 Engineering, Digital Transformation 現場で使える 技術実践コース
ねらい	商品企画力と 品質強化による 競争力強化	儲け・コスト意識・ 生産性向上	能力開発・ リーダーシップ発揮	安全・安心な職場 環境保全・カーボン ニュートラル対応	技術力向上・ DX力の強化
実務経験	【PQ1】初めて学 ぶ統計的品質管 理 (3h 新任)	【CD1】5S実践の 基本 (3h 高津)	【HC1】コミュニ ケーション力を鍛える (3h 坂井)	【SG1】コンプライ アンス・ITセキュリティ 入門 (3h 野田)	同日実施 薄黄色地 青地 →新企画講座
5年未満	【PQ2】QC・新 QC7つ道具の使 い方 (3h 新任)	【CD2】標準作業 を体感する(経験型 講習) (3h 西村)	【HC2】成果をあげ る仕事術 (3h 廣瀬)	【SG2】現場での安全 行動の基礎 (6h 今井)	白色地 青地 →講師交代・ or 内容刷新
5年～10年程度	【PQ4】リーダー のための品質力 強化法 (6h 中居)	【CD4】仕事が楽 しくなる現場改善の 進め方 (6h 今井)	【HC4】リーダーの ためのリカレント計画 (6h 中居)	【SG3】企業倫理と コンプライアンス (3h 野田)	●データ解析の基 礎と応用 (3h 柴田)
10年以上	【PQ3】ワクワクする ものを効率的に つくるものづくりの 考え方 (3h 西本)	【CD5】レゴブロッ クで遊びながら学ぶ 作業カイゼン (6h 西村)	【HC5】職場のエン ゲージメントを高める マネジメント術 (6h 中居)	【SG4】現場でのIT セキュリティの基礎 (3h 鈴木)	●産官学連携ラボ 機器の使い方 (3h 山田)
	【PQ5】生産問題 発生時の未然防止 (3h 仲野)	【CD6】経営資源 から儲けを考える (6h 廣瀬)	【HC6】職場のエン ゲージメントを高める マネジメント術 (6h 中居)	【SG5】環境問題と 廃棄物処理の実務 (6h 三〇)	
	【PQ6】100%の 良品率を狙うトヨタ 流課題創造術 (3h 仲野)	【CD7】もうけを生 む生産設備の改善 (3h 西本)		【SG6】DXで進めるカーボンニュートラル まるごとシステム (西村・鈴木) 6h×2回 + システム実装・データ分析(高専生協働)	
			合計 3h:16本 6h:11本		

会場 受講風景



セミナー会場 図書館センター



ワークショップ



集合研修



企業現場でのワークショップ

・主催:岐阜高専地域連携協力会
 ・協力:岐阜工業高等専門学校
 ・連絡先:岐阜高専総務課 企画・研究協力係
 TEL 058-320-1213 FAX 058-320-1240
 E-mail: kenkyu@gifu-nct.ac.jp

・講座開催時期:2024年5月中旬～10月下旬・定員:各講座30名 ※一部の講座を除く
 ・受講募集開始:2024年2月中旬より受付開始(3月dd日)
 ・岐阜高専地域連携協力会ホームページで受付予定
<https://www.gifu-nct.ac.jp/cooperative/>
 ・開催場所:岐阜高専図書館棟ほか岐阜高専内施設を予定
 ・講師:モノづくり経験・知識豊富な岐阜高専教員・職員・卒業生が担当します。

岐阜高専と地元企業等との連携を図り交流を深め地域社会の発展に寄与することを目的に活動しています

岐阜高専地域連携協力会

機械工学科の現状について

機械工学科 山田実

高専祭は久しぶりの通常開催で、多くのOBの方が訪れてくれました。ありがとうございました。

【高専祭専門展】

今年の専門展のテーマはショベルカーを作ろうということで、夏休み前から計画を立て、製作に励んできました。ブースでは工事現場を模した装飾をし、圧縮空気で動く人の高さほどのショベルカーのアーム部分の操作体験、ショベルカーの説明、レゴで作ったショベルカーの操作体験などがおこなわれました。

教員の投票により決まる校長賞では技術部門賞を頂くことができました。製作にあたり費用の一部を機巢会から援助していただきましたので、ここにお礼申し上げます。



【研修旅行】

11月7日から10日にかけて、3泊4日で4年生の研修旅行がありました。機械工学科は大阪、九州、山口、広島を巡り、小松製作所大阪工場、武山鑄造株式会社熊本工場、中央可鍛工業熊本工場、あべのハルカス、阿蘇、三池炭鉱万田坑、太宰府天満宮、錦帯橋、大和ミュージアムなどを訪れました。



高専人会に参加して

機械工学科 山田実

11月1日（日）に一般財団法人高専人会主催の第1回高専人交流会が東京六本木・泉ガーデンギャラリーであり、参加してきました。高専人会では、高専で一度でも学んだ事がある人を学校の垣根を越えて「高専人」と呼んでいます。高専人会はこの高専人をつなぎ、卒業生にとっての集いの場を提供し、現役高専生にとっての応援団となる会です。高専にお世話になった方達がなにか高専に恩返しをしたいという思いで作られた会です。

当日は用意された席が満席になる500人以上の参加者がありました。発起人の1人であるさくらインターネット代表取締役の田中邦裕氏の挨拶で始まり、国立高専機構理事長の谷口功氏（全国国立高専のトップです）、高専出身の参議院議員梶原大介氏、ロボコンや高専体育大会を主催する全国高専連合会会長鶴見智先生（北九州高専校長。私が豊橋技科大の学生だった頃、人事交流で研究室に來られて、一緒に研究したりお酒を飲んだりしました）などがつぎつぎと挨拶されました。

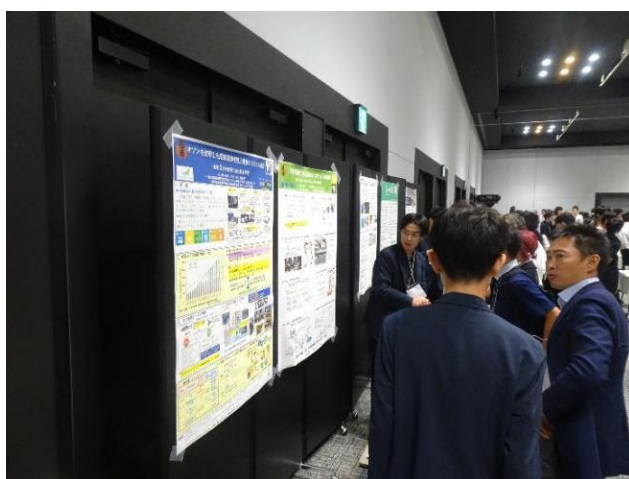
パネルディスカッションでは神山まるごと高専校長大蔵先生（今年4月に開校した起業家を育てることを目的とした高専で大蔵先生も高専出身です）、NTT 月曜会参与阿部氏、ヒューマンネットワーク高専顧問の島田氏など7名が登壇されました。

高専人会代表理事の渋谷修太氏（長岡高専卒）から高専人会の目的として、卒業生のネットワークの活性化、寄付文化の浸透、高専生の活動の応援（こんなものづくりをしたいという学生のプロジェクトに対し資金を提供するなど）があることが説明されました。そして高専人会の夢として世界中のどこに行っても高専人同士が助け合えるようにしたいそうです。そのため、高専人会は各高専の同窓会や高専の関係団体と連携をとっていきたいということです。

会後半の交流会は非常に盛り上がり、多くの方から声をかけてもらったり、お話しをしたりしました。特に20代を含め若い方が大勢みえたのが印象的でした。名刺交換した企業の方には後でメールを頂いたり訪問していただいたりした所もありました。来年は沖縄であるそうです。

高専人会に興味を持たれた方は下記のホームページから高専人会に登録してください。

高専人会ホームページ <https://kosenjin.org/>





RoboCupJunior in France

2023世界大会

機械工学科 3年 高井 鏡士朗

私たちチーム Blend は、RoboCupJunior というロボットの大会に出るために 7 月 1 日から 14 日までフランスへ行ってきました。私たちが出場した競技はロボットが災害現場を模したフィールドを探索し、被災者を模した文字や色を見つける RescueMaze というカテゴリです。大会では、さまざまな国のチームが製作したロボットとフィールド内で得た得点数を競い合いました。最善を尽くし、できる限りのことをしましたが、結果は 25 カ国中 12 位という順位でした。しかし、ポスター制作の部門でベストポスター賞に輝くことができました。

フランスでは、さまざまな国の人と交流を行いました。国によってロボットのプログラムやハードウェアが違っており、とても勉強になりました。そして、何より力がついたなと感じたのが英語での会話です。まだネイティブレベルには及びませんが、フランスではいつでも英語で話したり聞いたりする必要があったのでとても力になりました。

また、今回の世界大会で確認することができた不具合を修正して、次の世界大会へ出られるように今もロボットの作成に尽力しています。

チームメンバー

電子制御工学科 3年 宮里 孝希 鷲見深風

機械工学科 3年 高井 鏡士朗 細田 亮平



OB紹介シリーズ

起業家として活躍する同窓生

株式会社 インプローブ 代表取締役 武藤良三 （14 期生）

本シリーズの連載を始めたのが機巢会 35 周年イベントを過ぎたあたりだったかと思う。このイベントに出席いただいた武藤さんに登場していただきたくアプローチしていたが、お忙しい方でスケジュールの調整がつかず今季となった。

武藤さんは高専卒業後、大手メーカーに就職されたが、具体的な課題、問題意識を持って転職、そして起業された。今風の言葉で言えばスタートアップという形態を経て、さらに夢を持って会社を経営されている。今回、経営・開発の本部がある名鉄岐阜駅付近のビルでお話を伺う事ができた。

会社員からソフト会社に転職、そして起業

卒業後にトヨタグループの豊田合成に就職し、内製金型・設備の

製作から始まって、現場作業、生産技術、購買係を担当しました。

その後 IBM5550 を使った発注原価管理システムを作成しました。

高専卒業から 6 年経過した 1986 年に、生産技術の現場で何が必要かそして自分が何で貢献できるのか少しは分かったような気になっていたかもしれません。

それから縁があって、岐阜の某ソフト会社へ転職しました。ソフト会社といっても、当時はオフコン販売が主体（大手コンピュータ会社の代理店）で、ここでは営業に従事していました。営業を通じて、システムメンバーのスキル不足、客先要望の難しさを痛感し、パッケージソフトで販売することを提案しました。そして Windows3.1 ベースで製造業向け発注仕入、原価管理システムを制作しました。当初は全く売れませんでした。提携先の大塚商会のおかげで知名度が上がり売れるようになりました。その後、東京支店長としてかなりの販売実績を残しましたがその後退社。そのシステムは現在年商 35 億円程度の商材になっていることが世の中に必要とされていた証でしょう。



本部ビルの前に立つ武藤さん

会社を起業してから感じたこと

2004 年 7 月、大塚商会のコンサルティングとして起業しました。創業 2 年後に岐阜市創業支援認定会社となり、その支援のもと原価管理システムを開発しました。2008 年のリーマンショックに見舞われ、半年間仕事がなく税理士から廃業を勧められたこともありましたが、景気はいずれ戻ってくると信じパッケージソフト開発の継続に専念はしました。当時 3000 万円の借金を抱えて苦労しましたが優秀な社員（原さん他）に支えられて第二弾の工程管理システムを完成させることができました。知名度がないというのは悔しいもので最初はなかなか売れませんでした。あきらめずに東京ビッグサイトの展示会に複数回出展していると、開発商品である「サクッと工程」58 万円のコスパ効果のインパクトが効いて、工程管理システムが次第に売れるようになってきました。ただ創業当初のような無料の出展では見込み客がないので、最近では年間 1500 万円くらい広告宣伝費をかけています。現在の経営は無借金、良好で、常に利益計上が続いております。パッケージソフトが完成に近づいておりますので外注費が減り、DVD またはダウンロードで販売するため、ほとんどが売上粗利となるためです。このように自社商品が育ってくるのが楽しい、またスタッフが育つのも楽しい、同時にお客様が喜んでくれるのがうれしい、という三方良しみみたいなものですね。ようやく 450 社の顧客数に到達し、それでいて電話サポートスタッフ 2 名でやっているので完成度が高いと自負しております。新製品としては Android スマホ対応で二次元バーコード読取り可能

な作業実績収集アプリを発売して好評を得ています。軌道には乗っていますが、これからも製造業にまつわるソフト作りでやっていきたいと考えています。製造業は正直で地道にやっている、そういう人を助けたいですね。

高専時代の思い出話や役に立ったこと

機械工場実習が役に立ったと思います。物作りをどうすればいいか？ということが分かるようになりました。豊田合成の時には機構学が役に立ちました。設計、製図、組立など、使える道具を多く学べました。これら以外にも三角関数も役に立ちました。

将来、この会社をどのようにしていきたいか

岐阜駅近くに本社ビルが欲しいですね。坪 100 万円で 60 坪の土地に 3 階建ての社屋 5000 万円程度のかわいいビルが理想です。人材を集めやすくしたいのが大きな理由です。後継者となる人材を育てていきたいですね。今の事業を拡大するため、社員数を 30 名くらいにして、売上げを 2 倍くらいにしたい。当社は時給が 1200 円から 1700 円のプログラマーのパートもいますし、年収 1200 万円くらいになるエンジニアもいる。報酬は岐阜地域では高い方だと思っていますし、この水準はこれからも維持したいと思っています。この業界、2 年に 1 回は商材を出さないとダメ。付加価値を時代に合わせて出し続けます。現場に行かないと、分からないことが多いので、70 歳になっても現場に出ているだろうと思います。

後輩に一言

当社に在籍する名工大出身のエンジニアは英語マニュアルを見ながら仕事をしています。最近、この重要性に気が付きました。最先端の技術は英語で学んだ方がいい。日本語にすると遅れてしまいます。

退職後の事

釣りでもやりますよ。ヘラブナ釣りを池、川、湖でやっている。釣るのが楽しい。年中釣れる。厳寒期でも釣りができる。営業と同じ。えさ、糸の長さ、ポイント、深さ、などパラメータが多い。考えながらできる趣味ですね。

取材を終えて

取材中にいただいた原稿で、何度も原さんという社員の名前が出てきた。業務終了後に伺ったために、お会いする事ができず紹介もできないが、きっと武藤さんが起業するにあたって二人三脚で命運を共にしてくれた相棒なのだろう。もちろん、社長の武藤さんを支えてくれたのは原さんだけではないだろうが、ホンダの藤沢副社長、松下電器の井植歳男専務を連想する。話が少し逸れるが、松下歴史館へ入ると松下電気器具製作所創業時の写真が飾られているが、井植歳男は、そこに写っている松下幸之助の義弟である。そんなことも思い出した取材だった。
(文責：15 期生 中尾)

<会社情報>

株式会社インプローブ

500-8178 岐阜市清住町 3-2 石樽ビル 2 F

<https://www.improbe.jp/>

(株)インプローブの差別化ポイント例：

他社と違ってソフトのお試し使用ができます。

PC も貸し出し可能！



お話を伺った本部会議室で

(武藤さんと筆者)

タイムカプセル物語 —50年の時を超えて—

8期生 犬飼宏好

5月に開催された2023年度機巢会定期総会の中で、機械工学科8期生が在学中に高専構内に埋めたタイムカプセルに関する提案がありました。現在、8期生の中でタイムカプセルの掘り出しに向けて活動を開始しましたので、現状や今後の進め方などをお伝えします。

1. 発端

今年5月27日（土）に岐阜高専機巢会定期総会が名鉄岐阜駅近くの「岐阜キャッスルイン」で開催されました。各議題が進行する中、ある出席者から「在学中にタイムカプセルを埋めた学年があるが、高専祭のイベントの一つとして掘り出してはどうか」という提案がありました。

タイムカプセルを埋めたのは 私たち8期生でしたので、状況を以下のように説明しました。

- ・高専祭のイベントとして埋めたが、4年生または5年生の頃と思われる
- ・埋めた場所は高専正門から西にある武道館横のフェンスの盛り土あたり
- ・約50年の月日を経て掘り出してみたいという気持ちと、そのままそっとしておいて欲しいという気持ちと半々ではあるが、高専構内に8期生の私物をずっと埋めておくのもどうかと思っているので、8期生全員に機巢会総会での提案状況を伝え、方向性を決めたい。

その後、機巢会事務局から掘り出す費用は機巢会が負担しても構わないとの提案を頂きました。

2. 8期生の意見及び情報収集結果

8期生全員にメールや電話、郵便でタイムカプセル掘り出しに関する機巢会総会での提案状況を伝え、賛否を確認したところ、掘り出しに賛成が大多数という結果でした。また、掘り出す時期については、私たちが古希（70歳）を迎える年であり、卒業して50年を迎える年でもある来年（2024年）にしようという結論となりました。なお、高専祭のイベントに加えてもらうかについては検討課題としました。賛否の確認に併せて、タイムカプセルに関する情報収集も進めました。

1) 埋設場所

- ・体育館の北側で武道館横にあるフェンスの盛り土あたり
- ・土被り（タイムカプセル上面から地表まで）が30～50cm程度の深さに埋めた模様

2) 形状及び材質

- ・円筒形で高さ100cm以下、直径は70～80cm程度と記憶
- ・材質はステンレスまたはアルミニウム

3) 内容物

- ・機械工学科8期生が収めた品物
 - ・その他、当時の機械・電気・土木・建築学科の19クラスの品物も入っている可能性あり
- ただし、全クラスではなく希望したクラス（クラスに関する情報は無い）で、10クラス程度

3. 機巢会役員との打ち合わせ

8月19日（土）、岐阜高専にて機巢会役員（飯沼会長、山田副会長、太田事務局長）とタイムカプセル掘り出しに関する打ち合わせを行いました。掘り出しに関して賛成多数であったこと、埋設場所は体育館北側の武道館付近であること、形状や材質に関すること、内容物は機械工学科8期生以外（1～5年生の他学科の学生）の品物も入っている可能性があること、掘り出しに関する概算費用（埋設物探査機のレンタル費用やタイムカプセル掘り出し費用〔廃棄処分や消耗品購入などを含む〕）等を伝えました。

今後の（当面の）スケジュールとして、埋設場所の特定、掘り出し時期の調整、同期会を開催し意見交換と意識合わせ、役割分担を決めていくことも伝えました。また、山田副会長には岐阜高専に係わる事項の連絡や調整を依頼しました。

4. 埋設場所の事前確認結果

タイムカプセルの埋設場所を特定する為には埋設物探査機（金属探知機）が必須です。しかし、メールのやりとりで埋設場所の推測を重ねる中、現地を見てタイムカプセルの埋設場所を推測してみようとい

うことになり、8期生の有志7名で現地調査を行いました。有志は、岐阜高専のお膝元である本巣市をはじめ、遠くは高山市、豊川市など様々な地域から駆けつけました。ここに「タイムカプセルあるある探検隊」が発足しました。

8月29日（火）12時に岐阜高専近くの喫茶店で待ち合わせ、昼食と作戦会議（と言うより雑談）を行い、13時からタイムカプセルが埋まっている可能性のある場所を探索しました。探索場所は体育館横の武道館北側にあるフェンスの盛り土あたりで、武道館付近から守衛室へ向かって東西約20m×南北約5mの範囲としました。

しかし、盛り土には雑草対策で「防草シート」が一面に張っており、その上から埋まった場所を探索することになりました。従って、防草シートの上から測量用ピン（有志がホームセンターで購入した細い金属棒、約60cm）を差し込み、タイムカプセルと思われる物体がないか探索しました。メンバー全員の記憶と「将来、掘り返す為には目印となる場所に埋めるのでは？」「人力で持ち上げたのだから、盛り土の斜面に埋めたのでは？」という仮説を立てて、場所を推定しました。

すると、岐阜高専の校舎北側の壁から北へ向かって真っ直ぐ線を引いたあたりの盛り土の斜面で条件に見合う場所があり、そこに測量用ピンを差し込むと何かに当たりました。そこで、この場所をタイムカプセルが埋まっている場所と推定しました。

8月31日（木）、「ダウンジング」の経験豊富な人に依頼して、タイムカプセル埋設場所を探索してもらいました。「ダウンジング」とはL字型の金属棒を片手に1本ずつ持ち、地中の物体を探索する技術です。信じられないような搜索方法ですが、業界では結構利用されている技術とされています。その結果、何かが埋まっている可能性のある場所が2カ所、特定され、そのうちの1カ所は、私たちが推定した場所と一致しました。

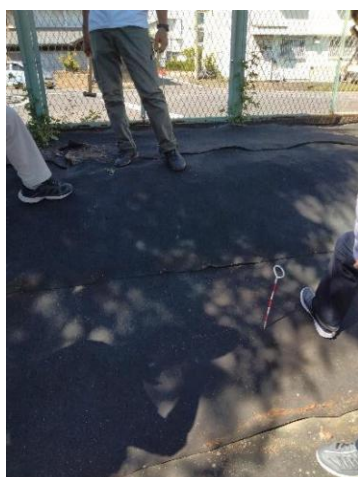
今回の「タイムカプセルあるある探検隊」の調査はここまでです。正式な埋設場所の特定には岐阜高専施設系の立ち会いの下、埋設配管図面と照合しながら、埋設探知機を使用しての調査となります。この調査は素人が出来るものではなく、専門家に依頼するしかありません。現在、岐阜高専に専門業者のリサーチをお願いしていますが、メルマガ読者の中で自ら埋設物探査を行っている人や専門業者を知っている人がいらっしゃいましたら、メルマガ事務局に連絡してください。ご協力、よろしくお願いします。

5. 最後に

8月19日（土）機巢会役員との打ち合わせの際、ある役員からこんな言葉を頂きました。

「古希という人生の節目をタイムカプセル掘り出しという8期生全員の共通の話題で盛り上げられる機会を羨ましく思います。是非とも十分に楽しんでください。その為のサポートは行っていきます。」と。この言葉を頂き、私たち8期生は嬉しく思ったと同時に励みになりました。タイムカプセルについて、多くの8期生は自分が何を入れたのか覚えていません。また、約50年前に収めた品物の保存状態が決して良いとは限りません。しかし、タイムカプセルの埋設場所を捜したり、掘り出して中身を確認したり、その為に普段は会えない遠くの同期と顔を合わせたり、タイムカプセルを酒の肴に飲み会を開催したり、様々な出会いが起ころのではと期待しています。これからの約1年間、肩肘張らずに楽しんでいきたいと思っています。

なお、今後もメールマガジン「機巢」の紙面をお借りして、その後の進捗状況を伝えていく所存です。



←
タイムカプセル
埋設候補地

→
あるある探検隊



編集後記



6M 太田哲也

時が経つのが早く感じられます。暑かった夏が一気に秋を素早く通り過ぎて冬になります。若いころは雪が降るのが待ち遠しくてスキーに行ったものです。秋は衣替えですが、季節を先取りするのがお洒落だと思い、9月にはセーターを出して着ていました。高専祭の時はジャンパーを着ていた記憶があります。今はマンションに住んでいるので室内では半袖のTシャツです。エアコンしかありません。ストーブやこたつは使いません。家の中では薄着です。季節感がなくなってきました。

今年の紅葉は綺麗でしょうか？楽しみです。私は趣味が無いと思っていましたが、下手でもゴルフは趣味でしょう？と言われました。70歳を過ぎたのでゴールドマークから打っても良いのですが意地でも白マークが見え張って時々青マークから打っています。気持ちだけは若いつもりです。



9M 若井政伯

高専で良かったのかどうか？機械科で良かったのかどうか？本当はよくわかりませんが、最高の選択だったと思うようにしています。

ただ、はっきりと残念に思うことがあります。それは、男女共学なのに女子学生がいなかったことです。ドラマや映画などで、当たり前のように男女一緒に机を並べるクラスのシーンを見るたび、違和感とあこがれをいだいたものです。もし、やり直せるならちゃんとした男女共学のクラスにはいたい。



9M 熊田 進

中学校から始めた剣道を、高専でも続けたことはよかったと思います。段位は人並みに昇りましたが、戦績で輝かしいものではありません。試合は団体戦のメンバーを集めることに苦労していました。そんな感じの剣道をやめることなく、よく続けられました。魅力的な先輩がいたし、女性剣士も入って楽しかったのだと思います。夏合宿も好きでしたが、朝のランニングは苦手でラグビー部によくやじられました。最終年は部長を任せられ、高専全国大会で明石に行けたのもよい思い出です。2次オイルショック後の就職難のなか、希望企業に入社できたのも剣道のおかげでした。本社人事部長は高段者で、何度もけいこをつけてもらいました。「君の入社試験は平均点以下だったけどね・・・」とのこと。



15M 中尾賢治

我が家は、築26年になりますが、10年、20年というスパンで塗り替えなどのリフォームが必要になってきます。何かやると100万円単位で資金が必要になりますので、QOLを考えて長持ちするように材料選定も重要です。先日は、木製の網戸（サッシではなく、和風の木製なのです）が動かなくなりました。どうしたものかと、網戸を外して戸車を見ると、プラスチックの溝車が割れてボロボロでした。こんなの交換だけで簡単に済むので、ホームセンターで購入してきて、息子と一緒に交換しましたが、戸車一つをとっても種類が多いです。プラスチック2種類、鉄2種類、ステンレス2種類もありました。何も知らないとどれを使ったらいいかわからない。塗装の塗料でも種類が多くて迷いますね。自宅だけでなく、事業でもいろいろな選択肢があったとき、どれが最適なのか、常に迷ってばかりです。



24M 山田実

LEGO 同好会の作品として岐阜高専の校舎、敷地を LEGO で再現することにチャレンジして今年で3年目になります。調査のため放課後などに学生と一緒に校内のあちこちに行き写真を撮ったり長さを測ったりしています。校内で始めて行くところや普段見過ごしているところもありいろいろな発見があります。気分は探検隊です。岐阜高専は60周年を迎えましたが、おそらできた頃そのままのところを見つけると高専の歴史を感じます。今後、敷地の南側を作りますが、新たな発見があればよいなと思っています。



25M 梅田茂之

10月28日(土)29日(日)に高専祭が4年ぶりにフル開催されました。この文章も日曜日に開かれているOB向けの「若鮎の部屋」でお寿司をいただきながら書いています。3年前にOGとなった娘を連れてお世話になった先生方に挨拶していく中、自身が卒業する時期にまだまだお若かった先生方が、もうすぐ定年、退官というお話を伺い、少し寂しい想いにもなりましたが、校舎内や専門家に溢れる在学中と変わらない活気に浸りながら、自身も50歳を過ぎて一步一步そんな時期に近づいていることを実感しました。

最近のトピックとしては、25MのLINEグループが9月に突如立ち上がり、現在31名の登録となっています。機巢会のクラス会補助制度などを宣伝して、活用してもらえるよう積極的にアピールしていきます。



32M 増井勇一郎

8月22日(火)、23日(水)に秋田県と秋田県立大学が共同運営している新世代モーター特性評価ラボ(電動化システム共同研究センター)を見学しました。秋田県は県の戦略として洋上風力発電などを活用したCO2削減などの取組や、ハルバツハモーター(MW出力の超小型発電機)の開発により航空機の電動化を目指すことでCO2削減するプロジェクトを実施され(内閣府・NEDOなどの事業)、新世代モーター特性評価ラボ(旧種平小学校)は旧校舎をリノベして施設として利活用され、地元秋田大学の学生もプロジェクトに参加するという、岐阜県にはない取組がありました。また子供の向けのワークショップも、数多く実施されていた為、今回の見学を機に、岐阜県の強みを再認識して、企業・大学の方とされに連携して、工業高校・自分の立場としてできることを積極的に実施したいと思いました。



52M 小林光希



発行日/2023年11月24日

責任者/飯沼義徳

発行/岐阜工業高等専門学校機械工学科同窓会「機巢会」編集室

〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑2236番地2

TEL 058-320-1343

<http://gifu-nct.com/>